

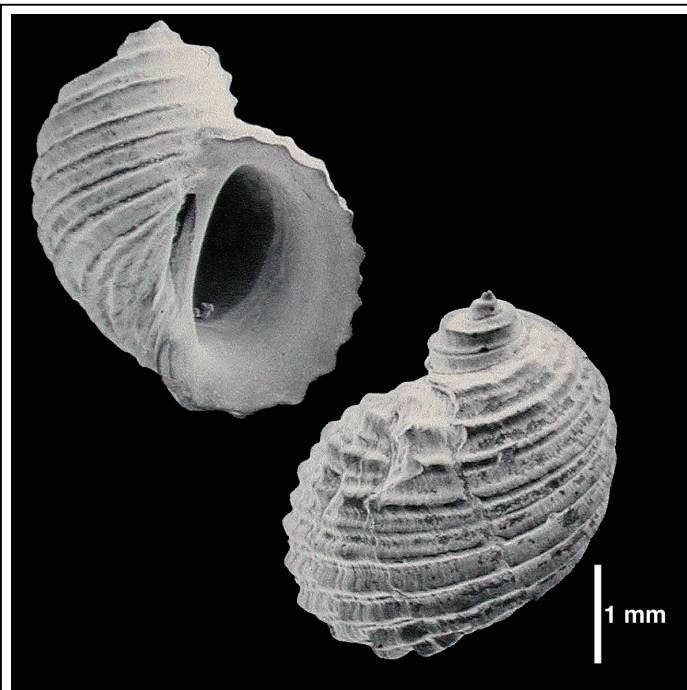
ハツカネズミ *Macromphalus tornatilis* (Gould)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯砂泥地にすむ。内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も、日間賀島南沖水深 2-10 m の砂泥底より死殻は少ないながらも採集されたが、生貝は採集できなかった (木村, 1996)。その後の調査でも死殻は非常に稀に採集されたが、生貝は採集されていない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。

【形態】

殻長約 4 mm の微小種で、太い紡錘形の殻を持つ。体層は大きく 7-8 本の太い螺肋がある。殻口は半円形となる。



南知多町日間賀島南沖水深 5-6 m (ドレッジ), 1994 年 10 月 11 日, 木村昭一採集(死殻)

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では近年生貝が採集されていない。死殻の採集例も非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、中国大陸。国内では房総半島以南から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

内湾湾口部の海岸礫地砂泥底の低潮線から潮下帯の転石下面に、ユムシ類の粘液で固められた泥の管に沿って付着する (福田, 2012)。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように県内では生貝を採集できない。死殻さえ稀で、危機的な生息状況といえる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 福田 宏. 2012. ハツカネズミ, p. 56.in : 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

(木村昭一)